

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会



里山だより

2007年11月

秋冬号 29号



関西大学の学生達がペレットの原料を作っている様子です。

07年11月11日

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

〒518-0762 三重県名張市上三谷268番地の1

TEL 0595-64-0051

fax 0595-63-4314

ホームページ : <http://akame-satoyama.org/>

※ホームページを開いてメルマガの読者として登録してください。

面白い情報があなたのメールに届きます。



【2008年春ワーキングホリディ】

海外では、休日を社会奉仕ボランティア活動に参加して、充実した日々を過ごすことを「ワーキングホリディに参加する」といったりします。日本では、なかなか馴染みはありませんが、ナショナル・トラストの本家英国では、ザ・ナショナル・トラストがたくさんのワーキングホリディの現場を持って、国内からだけでなく海外からも参加者を集めて、環境保全の取り組みを行っています。

この度、赤目の里山を育てる会もこのようなワーキングホリディを『赤目の森』を拠点に行うことを決定しました。2週間、里山保全や介護事業、地元の小学校への学校訪問、地域との交流などの取り組みを行って生きたいと思います。 充実した日々を過ごすために、ぜひ一度ご参加をお考えください。

★2008年春ワーキングホリディとは

赤目の里山の保全活動を中心的なボランティア活動として、2週間エコリゾート赤目の森を宿舎として、自分たちで自炊をしながら、共同生活を行います。 宿舎の費用や食材・生活費は、赤目の里山を育てる会が負担します。自分たちが負担しなければならないのは、赤目の森までの往復の旅費だけです。

★ 2008年春ワーキングホリディの詳細★

主催者	特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会
開催期間	2008年3月17日(月) - 31日(月)
キャンプ地	三重県名張市上三谷268-1 エコリゾート赤目の森
ワーク	赤目の森 ナショナル・トラスト地周辺
内容	・ 赤目の森 里山保全 ・ 地元との交流活動 ・ 地元小学校 訪問 ・ 参加者との交流活動 ・ 介護事業の手伝い ・ 日本ミツバチの養蜂 など
時間	午前9時から午後5時まで 週休2日 曜日は別に定める
リーダー	参加者の中からリーダーを定める。サブもあれば尚良い
参加資格	18歳以上の健康な男女(障がい者の場合でも可能です)
参加費	無料 (持ち物は作業のできる着替え 数回分 筆記用具など)
お申し込み・お問い合わせは 赤目の里山を育てる会 事務局まで	



【年末恒例の餅つき大会＋里山保全活動】

2007年12月2日日曜日 名張市市民公益活動実践事業の一環として行います。ご参加を

日時 12月2日 日曜日 午前10時から午後3時まで

場所 エコリゾート赤目の森 三重県名張市上三谷268-1

内容 赤目の森の保全活動 ペレット作り 薪作り 里道作り などなど

参加費 無料 ただし、昼食はお餅としますので、実費500円ご持参ください。

お申し込み 赤目の里山を育てる会 事務局へご連絡ください。電話 0595-64-0051

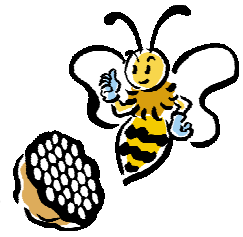
無料送迎 近鉄赤目口駅より 送迎バスがあります。午前9時45分頃お集まりください。

【ミツバチの巣箱の状況について そのⅢ】

赤目の森のミツバチ大作戦は順調に推移しています。15箱置いた巣箱で、現在日本ミツバチが生活している巣箱は、2個だけです。満タンの蜜をかかえています。冬を越えるための大切な食糧ですから、この2箱は大切にしています。そして、この夏からのミツバチ騒動は、下記のブログに詳しく載っていますから、ぜひ読んでみてください。

<http://blog.akame-satoyama.org/archives/200708-1.html>

とにかく、見事2リッターの濃厚な日本ミツバチの蜜「百華蜜」が採れました。来年からはぼちぼち東京の仲間とミツバチプロジェクトを立ち上げようかと思っています。ご協力ください。



＜2007年度名張市市民公益活動実践活動の取り組みについて＞

【生き甲斐支援講座】 NPOやボランティアにどうしたら関わられるか

大量退職時代に向って、リタイアされる方を対象に、自らが持つておられる技術や知識を社会に還元してもらうための受け皿としてのNPO・ボランティア団体の紹介を兼ねて、NPOやボランティア団体とはいったいどのような団体なのか、どのようなことを目的としているのかということをはっきりとすることを明らかにする場として、「生き甲斐支援講座」を開催することになりました。

2007年7月15日(日) 第1回 「NPO・ボランティアへの誘い」

初めての講座では、人と人の結びつきを「アイスブレイク」という手法をみんなで学びました。そして、経験者として赤目の里山を育てる会理事の吉田薫さんにNPOでの仕事の経験を語ってもらう事ができました。

2007年9月 2日(日) 第2回 「NPOやボランティアの人 金物 そして組織」 ボランティアコーディネーター阿部 圭宏さん

第二回は阿部さんに、NPOの実際の取り組みを分かりやすく語ってもらう事ができました。人 金 物という組織活動には欠かせない要素を一つ一つ解説してもらい、理解を深める事ができました。

2007年10月14日(日) 第3回 「仲間たちが頑張っている現場 探索」 滋賀県大津市

今回は「大津百町館」見学を見学する事ができました。

~~~~~

## 【赤目の森で希少動物に出会おう!&二胡コンサート】

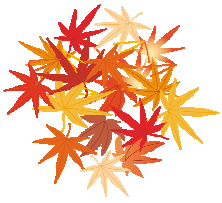
9月9日に赤目の森のトラスト地で「赤目の森で希少動物に出会おう!&二胡コンサート」が開催されました。“希少生物と私たちカワバタモロコとは”には奈良県曾爾村教育委員会の今西 塩一氏、“希少生物との共存・ハッチョウトンボ”には三重県埋蔵文化センターの東 敬義氏を向かえ、実際に里山を散策しながら里山に生息する様々な生物を見て歩きました。

また、長久の会の方々をお呼びしての二胡コンサートも多くの方にご参加いただき、成功を収める事ができました。

ご支援、ご協力ありがとうございました。



二胡コンサートの様子



2007年7月～2007年11月

# 赤目の里山を育てる会活動記録

## ●国際ワークキャンプ 2007年夏 名張キャンプ 9月1日(土)～9月15日(土)



今回の国際ワークキャンプには、日本・韓国・ドイツ・セルビアより12名の参加があり、第1号ナショナルトラスト地の整備とトンボ池のトレールの修復が行われました。トラスト地の雑草はきれいに刈り込まれ、トンボ池のトレールは修復され、池の泥のかい出しもされています。また、ワークキャンプ期間中に開催された「積水ハウス助成事業 希少生物と出会う&二胡コンサート」では、キャンパーによる模擬店の出店、英語劇の上演など企画・準備から関わり、イベントを盛り上げてくれました。今回、残念なことに、長い間のワークキャンプで初めて作業中に手指の傷害という事故がありました。この事故の教訓を大切にして、これからのキャンプをより充実したものにしていきたいと思えます。

## ●日本ミツバチの採蜜

昨年の夏に巣箱を設置し、今年の春に、三個の巣箱に日本ミツバチが住み着いたことを報告させていただきましたが、この夏見事に、その日本ミツバチの巣箱から蜂蜜を採ることができました。

はじめての採蜜は8月に行いました。巣箱の中は大きい巣が7枚垂れ下がっていっぱいでした。巣を全部はずしてしまうと、ミツバチの住処がなくなってしまうので4枚だけははずすことにしました。巣はスポンジケーキのようにふわふわしています。蜂の巣は上下にエリアがわかれていて、上のエリアにはたっぷりの蜂蜜が入り、下のエリアには蜂の子が入っていました。蜂蜜がたっぷり入っている部分を木へらでつぶして蜜を搾りました。絞った残りかすは蜜蠟です。コーヒー瓶1本分の蜂蜜が採取できました。蜂の巣箱作りから、たくさんの人とミツバチの協力を得て採れたとっても貴重な、赤目の森産、日本ミツバチの蜂蜜第1号です。濃厚で、後味のさっぱりした甘味のおいしい蜂蜜です。



9月に開催された「積水ハウス助成事業 希少生物と出会う&二胡コンサート」のイベントの中でも、イベントに参加された方の見守り中、巣箱から巣をはずし、採蜜を行いました。巣を絞る前に、参加のみなさんに巣をちぎり巣ごと口に含んで蜂蜜を味わっていただきました。

冬は採蜜は行わず、日本ミツバチたちが冬を越せるのを見守っていきます。元気に越冬した日本ミツバチがどんどん「分蜂」し新しい巣箱に居住してくれるのを楽しみにしています。赤目の森の日本ミツバチの様子は、これからも当会のホームページでお知らせしていきます。採蜜の時期には是非赤目の森においでください。

## ●週末ワーク



7月14日(土)～7月15日(日)と10月13日(土)～10月14日(日)の夏と秋に、週末ワークが開催されました。

夏の週末ワークは、生きがい支援講座と併せて行われました。2007年夏国際ワークキャンプのリーダーを中心に「アイスブレイク」を学び、初対面の参加者同士が、楽しみながらお互いを知り関わることができました。また、現場で頑張っている人たちの体験談を聞くということで、理事の吉田さんから赤目の里山を育てる会の話聞き、里山を吉田さんの案内で歩くことができました。これまでの里山を育てる会の活動や、里山がたくさんの人たちの手で守り育てられていることを実感させていただいたワークでした。

秋の週末ワークは、企業ボランティアの方の参加がありました。里山を歩き、萌芽更新中の木を見たり、赤目の里山の全体を知っていただく中で、ワークを行いました。山の木を伐採した後の木の枝をチップ&チョッパーにかけ粉碎しペレットストーブの燃料ペレットを作る作業を行いました。ワークの後は赤目の森の蜂蜜をみんなで味わいました。里山と人が深く関わって育っていくことと、里山ワークの楽しさを実感できました。

## ●石窯での製パン活動

月に1度、赤目の森の石窯で天然酵母のパンが焼かれています。

赤目の里山を育てる会会員の坂上優子さんと平原スガ子さんのお二人が、石窯を使って、ピザと天然酵母のパンを焼きにきてくださっています。あくまでも趣味ということですが、興味のある方は一緒にどうぞとお二人はおっしゃっています。

お二人は朝から石窯に火を入れ、仕込みをし、ピザとパンを焼かれます。お昼には焼きあがり、お二人のランチは焼きたてのピザとパンです。デイサービスにいつも、この焼きたてのピザとパンを差し入れてくださいます。石窯で焼いた焼き立てのピザとパンは本当に美味しくいくらでも食べられそうなくらいです。赤目の森の石窯を、こうして使っていることをとても嬉しく思っています。

これからも、石窯での製パン活動を楽しみにしています。また、こうした活動をたくさんの方に知っていただき、どんどん赤目においでいただき、一緒に石窯を活用していきたいと思えます。



## 第15回全国雑木林会議島根大会（2007年10月6日～10月8日）に参加して

坂上 優子

昨年赤目の森で開催された全国雑木林会議の感動冷めやらぬまま、今回開会式から3日間最後迄参加してきました。昨年は全国雑木林会議がどの様なものかも全くわからないまま準備からの参加でしたが、今回はその意義がわかっての参加という事と観客席側という事でかなりじっくり楽しみながら学ばせていただきました。

石見銀山が世界遺産登録されて観光客の多い島根県でしたが、会場になっている三瓶ダム公園や三瓶山方面、石見銀山の本谷遺跡群は雑木林に関心のある人達だけだったので、じっくり見学出来ました。が、今回も内容の濃いものが多く、時間がたりないと思うこと多々ありました。オープニングは温泉津小学校の竹楽器演奏でした。児童らが自ら作った楽器たちは素朴な温かみのある音で、演奏も見事でした。会場に児童らのご両親やお爺さんおばあさんまで観に来られていたのは微笑ましい光景でした。そのせいとかはわかりませんが、この日は終日高齢の方の姿があちこちで見受けられました。

基調講演では、たたら製鉄と石見銀山を広大な雑木林が支えていたという事を具体的な数字を挙げての説明に当時の人力のすさまじさ、歴史の重みを感じました。その後、私は三瓶方面の見学に参加したのですが、三瓶小豆原埋没林公園の地下に眠る縄文時代からの歴史が刻まれた巨樹群に圧倒され、これがうまい具合に村の人と地元高校の物理の先生が発見してこのような施設を建て保存出来ていることに驚きました。そして息つく暇もなく三瓶山の草原散策に向かいましたが、この山すそには牛が放牧されていて自然と人がうまく共存している事が今現在でも垣間見れました。貴重な植物や生物たちも生息して四季折々の風景も素晴らしいものではないかと思いました。この時はススキの大海原が美しく、ウメバチソウや山白菊などが愛らしかったです。

私達見学者を乗せたバスが野外ステージ会場に戻り、石見神楽と大交流会が始まる頃には再び人がどんどん集まってきました。地元でもめったに見られないという多根神楽団によるヤマタノオロチ退治の神楽は本当に見応えあり、迫力満点で神楽がこんなに激しいものだとは思ってもよかったです。観客からも歓声や賞賛の音があがりっぱなしでした。その他、古代笛と石見の銀製ではないかというフルートの演奏、アルプホルンの演奏は会場に染み渡りました。ナイスのメンバー達もダンスアトラクションで頑張って賑やかしてくれました。

2日目の分科会は「ここまで進んだ竹の利用」に参加しました。竹の利用の現在までの話がいろいろあるのかなと思っていましたが、竹利用の最先端をゆく方々を招いての発表で、淡竹屋の大石さんが発明した竹粉碎機は竹の特徴を良く捉えて出来ており、畑の肥料にまでなる竹のスピーディな変化振りが斬新でした。その斬新さを引き継ぐかのような中越パルプの企業の方のお話もおもしろかったです。竹を紙にするまでの課程を地域ぐるみにしてコスト・人件費削減、地域貢献している発想が素晴らしいと思いました。このお二人の熱演で山口県職員の山田さんの話す時間が殆どなくなってしまったのですが、お二人の話を含めて竹利用の話を流暢にまとめてくださいました。ただ、今回の分科会のお話では私のような素人が里山で活動をする際の竹の利用を如何にするかという点ではなかなか直ぐには実践できないかなとも思いました。けれども、このような貴重な話を拝聴できた事は本当に良かったです。コーディネーター・仕掛け人の中川さんに感謝いたします。

その他の分科会も興味深く、「獣害はなぜ増えるのか～森林管理の視点から～」 「簡易集材による里山資源の利用」など、どれも拝聴してみたいものでした。赤目の森の大会の時のように最終日に各分科会の報告の時間があっても良かったかなとも思いました。次回の大会会場も埼玉県飯能市に満場一致で決まり、和やかな閉会式のあと、午後からは石見銀山「本谷遺跡群」の見学。地元の方が故郷案内人として語り部をしてくださって銀山の間歩や精錬跡、里山跡を案内してくださり、抗道からの冷気に奥深さ、重さ確かな人の暮らし跡を感じました。

3日目は奥出雲エクスカージョンに参加しました。出雲神話の舞台である出雲大社を地元の語り部の方と一緒に見学し、参拝の礼儀にはじまり、その意味合いを強い郷土愛と共にお話してくださいました。間違った参拝をしている他の観光客に指導をしている姿はとても微笑ましかったです。それから古代出雲歴史博物館で出雲大社や出雲地域の神秘に迫り、夥しい数の銅剣の出土があった斐川町の荒神谷遺跡を訪れ、謎めいた古代の地に立って当事に思いを馳せ、そして雲南市の菅谷鑪製鉄所に向かいました。ここは映画「もののけ姫」の舞台にもなった場所だそうですが、製鉄所の手作りの炉は圧巻でした。試行錯誤の上に出出来上がったであろうその炉は地中深く、地下4mから作り上げられて、地表に現れている部分はほんの一部分。その炉を製鉄の際には三日三晩火を絶やさずに人力で動かしていたと聞いたときには鉄より重く熱いものがズシンと心にきました。栗の木の皮で葺いた屋根と土壁の穏やかな外見からは想像も出来ないほどでした。その道向かいに佇む桂の巨樹が3日間しか紅葉しないとい

うお話もすてきでした。もっとじっくりその界限を歩いてみたかったのですが、観るべき、学ぶべき場所が挙げだしたらきりが  
ないほど今回の大会も盛り沢山な内容でした。どちらかという今回は里山と鉱物資源という、一見つながりの遠そうなものが  
実は重要な関わりがあったという事が私の中では一番の発見でした。それと、雑木林と歴史的・地域的な変遷と関わり合いがと  
ても興味深かったです。

そして全国から集まった参加者の方達、大会スタッフや地元の方達とも里山を通しての興味深いお話が沢山出来たこと、様々  
な事を学ばせていただいた事は本当に有意義な3日間でした。2日目にしてやっと大人気の银杏ピザ（丁銀を模ったピザでナイス  
の皆さんの手作りです。）も食する事が出来て、良かった！今回もナイスのメンバーはあちこちでその活躍が見られました。  
ステージ舞台や会場作り、神楽に参加した人もいたとか！多才振りが頼もしいです。皆さんおつかれ様でした。ありがとうございました。  
内容の濃い3日間だったのであれもこれもとお話したかったのですが、なんとか簡単にまとめてみました。以上で私の、  
第15回全国雑木林会議参加報告とさせていただきます。長々とありがとうございました。

### 第15回 全国雑木林会議 石見銀山大会

岡田 健一

赤目の森でもうおなじみとなり、赤  
目の里山を手入れで欠かせなくなっ  
た国際ワークキャンプが年2回開催  
されています。私は2006年春と2007  
年春に国際ワークキャンプのリーダ  
ーを務めさせていただきました。

私は今回赤目で培って学んだこと  
や、リーダーの経験を活かして、島根  
県で今年の夏に開催されました「第  
15回 全国雑木林会議 石見銀山大  
会」に参加してきました。前大会はこ



こ赤目の森で開催され、今年の雑木林会議は石見銀山で開催となりました。雑木林会議赤目大会の時、国際ワークキャンプの青  
年達の活躍が注目され、今回の石見銀山大会でも国際ワークキャンプが初開催されることが決まりました。私はそのキャンプに  
リーダーとして参加して、世界中から集まった青年達と雑木林会議の設営準備と当日の運営に携わりました。今年石見銀山が世  
界遺産に認定され、注目を浴びました。しかし、世界遺産に登録されたものの石見銀山遺跡を覆う森林は手入れがされず手付か  
ずのままです。こうした中、NPO法人水と緑の連絡会議は「世界遺産を守る森づくり」として、日本や世界に里山や雑木林の重  
要性を発信するため、雑木林会議を開催をしました。石見銀山の鉱山遺跡が現在までに残されたことは、森林に包まれて環境と  
共生したためです。この「緑のタイムカプセル」のおかげで、過去の歴史や先人達の知恵を垣間見れることができました。初開  
催となった国際ワークキャンプでは雑木林会議の設営の準備や当日の運営を手伝う事によって、雑木林会議石見銀山大会の意義  
を地域や全国や世界に発信し、里山の価値を見直すきっかけになる場になればと考え開催されました。

大会当日は200名を越える人たちが集まり、三瓶ダムで晴天のもと行われました。初日は温泉津小学校が竹楽器でオープニ  
ングセレモニーを飾り、野外ステージで様々な催しが行われ、ワークキャンプメンバーも森林保全をテーマとしたダンスを披露し  
ました。地元の名物である神楽も披露され、夜の山の独特の静けさと、ステージのスポットライトとが幻想的な雰囲気醸し出  
しながら人々は神楽を楽しみました。分科会では、竹の利用、獣害との向き合い方、簡易集材による里山資源の利用、雑木林と  
俳句といったテーマのもと行われました。

つい数十年前までの人が里山に入り、手入れして、里山は人の手をくわえられることによって景観を保ってきました。しかし  
近年は生活スタイルの変化のため里山の有効性や重要性が軽視されてがちな傾向にあります。こうした全国大会である雑木林会  
議を通して、私は忘れ去られてしまった里山や雑木林の価値をもう一度改め直すきっかけになればと切実に思います。そして次  
の世代にも里山の価値を語り継いでほしいと思います。

# デイサービス赤目の森の様子

デイサービス赤目の森では様々なイベントを用意し、利用者の方に充実した日々を過ぎて頂きました。

夏祭り、里山散策、料理教室、運動会など、明るい笑顔や大きな笑い声など職員も一緒になって楽しく過せ、とても嬉しいです。



0708 夏祭りでのヨーヨー釣り



0710 里山散策 職員が栗の木を必死に揺らしている様子



0710 料理教室で餃子を作りました



0710 “よいしょ、よいしょ”  
運動会での綱引きの様子



0710 秋の味覚、栗の皮むき



0711 紅葉を見に行きました

## 世界初？パーソナルペレタイザー稼働！

赤目の森では数年前からペレットストーブを焚いています。ところが、燃料となるペレットは木材料がありながら遠く高槻まで買いに出掛けていました。そんなことはおかしいと思い、自分たちで作れないかと、世界最小のペレタイザーを導入し、試験稼働させていましたが、今年の冬から本格稼働ができるようになりました。自前のペレットを毎日作り続けるところは、世界でも赤目の森だけではないかと思っています。

ペレットストーブは、灯油ストーブやガスストーブとは違い匂いも気にならず、部屋全体が木の燃える香ばしい匂いと目に見える暖かい炎の色がとても心地よく感じる事が出来ます。

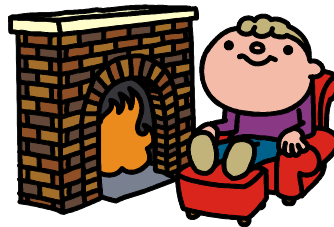
ペレットは、毎日30kgくらい作られています。表紙の写真は、ボランティアの学生さんが里山の木々の剪定枝をチップ&チョッパーにかけて、ペレットの材料作りをしているところです。



世界最小のペレタイザー



エ



## 全国の里山を豊かにするために頑張っています。

理事長の講演活動での活躍レポート 大切な自然をどのようにして守り育てるのか。

右の写真は今年の9月30日に鳥取県倉吉市であった鳥取県中部森林組合主催の「森林シンポジウム」での基調講演の様です。森林組合が真剣に里山の保全を考え出していることはとても先進的なのです。このような会にお呼びがかかるようになることはとても嬉しいことです。

このシンポジウムには、150名くらいの方がご参加いただきましたが、ほとんど高齢者の方ばかりで、とても残念に思いました。本当は孫の手を引いて来てほしいということを伝えましたが、若者が森林保全の主体者にならない限り、人工林でも里山でもこれからの展開は難しいのは確かです。

赤目の森で行っているモデル事業としての一つひとつの取り組みは、少々刺激が強かったかもしれませんが、ぜひ自分たちの山の財産をどう活用していくかの参考にしてほしいと思いました。

また、10月には、大阪の八尾市での環境フェスティバルに呼ばれて行き、そこでも赤目の里山を育てる会の取り組みについてお話をしました。大阪経済法科大学で行われたイベントでしたが、これは若者は多かったのですが、森林や里山に全く関係がない人たちなので、反応はほとんど無しでした。(スターリングエンジンなんか使ったのですが)でも、このようなイベントをコツコツやっていくことが重要なんだと思っています。12月は大学の講義で千葉市にいて、「地域再生」のテーマを考えながらお話をしたいと思っています。講演ご依頼は、事務局までお問い合わせください。



## 【新しい職員の着任】

この夏から新しい職員が2名着任しました。

中西紀子さんと森下靖代さんです。中西さんは名張市内、森下さんは奈良県宇陀市室生口大野にそれぞれお住まいです。二人ともデイサービスのヘルパーとして勤務しながら、様々な活動に頑張ってくれています。

赤目の森に勤務して数ヶ月経ちましたが、ここでの人の往来やイベントなどを経験して、赤目の森とはどんな場所か理解できたようです。

その結果、最近ではペレット作りに精を出してくれていて、「ペレットシスターズ」というあだ名がついています。

また、各種のイベントなどにも積極的に参加してもらって、赤目の里山を育てる会の活動を支えています。若い二人の力で、新しい道を切り開いてもらえれば嬉しいと思います。デイサービス赤目の森では、森下さんのお母さんにも時々手伝ってもらっていて、緊急対応もできるようになり、喜んでいます。



### ・毎月11日は、地元のジャスコでお買い物 「黄色いレシートキャンペーン」にご協力ください。

ジャスコでは、毎月11日をNPO・ボランティアへのサービスデーとして、お客様へのレシートをその日だけ黄色にしています。その黄色いレシートを出口のボックスにいれていただくと、そのボックスの団体へお買い上げ金額の1%を寄付するというキャンペーンをしています。

名張では、赤目の里山を育てる会のボックスがありますから電化製品などの高額商品は、必ず11日に買い物をし、当会のボックスに入れてください。他地方でも同じような取り組みをしていますから、なじみの団体へぜひ投函してください。

### ・ろうきん東海のNPO寄付システムで赤目の里山を育てる会を支援してください

労働金庫という金融機関があるのは、ご存知だと思います。ろうきん東海のグループでは「NPO寄付システム」を導入しています。自分の口座から、1口100円単位で毎月か賞与時期か、その両方から自分の指定したNPO団体に寄付するというものです。赤目の里山を育てる会もその指定団体の仲間に入れてもらいましたので、東海地方にいらっしゃる読者の方々には、労金の口座を作っていただき、ぜひご協力をいただきたいと思っております。

## 【赤目の里山を育てる会のメルマガの読者になってください】 現在 261名様

赤目の里山を育てる会のホームページ <http://akame-satoyama.org> このページで、メールマガジンを発行しております。読者登録をしていただければ、無料で毎月、赤目の里山を育てる会 エコリゾート赤目の森の情報を受け取ることができます。ぜひご登録をお願いいたします。この間発行が遅れていましたが、6月号から復活をいたしました。月々の思いや赤目の里山の情報などリアルタイムで、お知りになることができます。

寄付者 名張市 藤原マツ子様 16000円

## 【編集後記】

赤目の森の暖房は、ほぼ100%木質バイオマスエネルギーです。ペレット・シスターズ(デイのヘルパーさんたち)がそれを支えています。ペレタイザーの稼働や薪作りがとても大好きです。それも、素手での作業が苦にならないようです。軍手を使うのは、ダサイ感じでもあるのでしょうか。少し前に手を負傷したので、そんなことが気にかかります。

編集子

### 赤目の里山を育てる会の現状

個人会員 102名

賛助会員 5団体個人

みどりの募金累計金額 402万円

新入会者

賛助会員 名張市 中西 健治様

個人会員 名張市 間島 大和様

個人会員 宇陀市 森下 靖代様

個人会員 名張市 中西 紀子様